

# 穴一つから 胆のう摘出

おなかを大きく切り開かず  
に、小さな穴からカメラや電  
気メスなどを挿入して行う腹  
腔鏡手術。傷や痛みが少な  
い「患者に優しい手術」とし  
て普及してきたが、福岡市中  
央区の佐田病院（佐田正之院  
長）はさらなる「進化」に挑  
んでいる。

佐田病院は、胆石症の患者  
に対する胆のう摘出手術を1  
991年から腹腔鏡で行い、  
5千件以上を手掛けてきた。



佐田正之・  
佐田病院長

## 進化にさらさら 手術鏡腹腔 佐田病院の福岡市

この腹腔鏡手術は、鉗子や  
カメラ、おなかを膨らませる  
二酸化炭素を送り込む穴を計  
四つ開けるのが一般的だっ  
た。昨年米国で一つだけの穴  
で行う方法が始まり、佐田病  
院も器具の変更や訓練を積ん  
で5月から始めた。

この「単孔式」は、へその下  
を1・7センチ切るだけで傷が目  
立たない。入院も従来の5〜  
6日から短縮、翌日退院した  
人もいるという。ただ、おなか  
の上や下、右側など複数の穴  
から器具を挿入するこれまで  
の方法よりも、執刀医の経験  
や腕がさらに問われることに  
もなる。佐田院長は「単孔式を  
希望する患者さんは多いが、  
状況に応じて安全確実な4カ  
所で行う。選択肢が増えたと  
考えてもらえれば」と話す。